

2003年12月11日

内閣総理大臣
小泉 純一郎 様

日本バプテスト連盟理事会
理事長 平良 仁志

「イラク自衛隊派遣基本計画」に対する反対声明

小泉内閣が9日、閣議決定した「イラクへの自衛隊派遣基本計画」に、私達は、聖書の教えに従う者として、また、日本国憲法の平和主義を守る者として、強く反対いたします。もし、この計画がこのまま実行されるならば、日本は、取り返しのつかない重大な誤りを犯し、戦後最悪の事態を招くことになるでしょう。

この派遣という名の実質的「派兵」計画は、憲法前文及び第9条に示されている「紛争の平和的解決」という理念に反しているだけでなく、現実的にも、かえってイラクの状況を悪化させるだけではないでしょうか。自衛隊派遣の大義名分として、イラクの「自由と民主主義」「人道復興支援」のためと説明されますが、多くのイラク国民が米軍を侵略者と理解している現状では、米軍を支援する自衛隊派遣は、イラク国民の反感と憎悪を増加させ、様々なテロの拡散・増加を招くだけではないでしょうか。「無反動砲」「個人携帯対戦車弾」などの武器を携行した自衛隊が派遣されることで、今まで安全だった地域までもがかえって危険地域になるかもしれません。首相は「米英軍の武器や弾薬の輸送はしない」と言い、一方で福田官房長官が「武装した兵員の輸送はありうる」と表明するように、この計画は欺瞞に満ちたものに思えます。派遣された自衛隊員は襲われれば応戦するでしょうし、そうなれば双方に犠牲者が出てくるのは必至です。国は、派遣という名の派兵によって自衛隊をさらに軍隊化させて、自衛隊員を死に至らしめるようなことがあってはならないし、自衛隊員に人を殺させるようなことをしてもならないのです。

この計画の実行は、自爆テロなどによる日本に関わる国内外の安全をも脅かすことにもなるという意味で首相の言う「国益」にさえもならないのではないのでしょうか。それだけでなく、計画そのものが、かつて自国の国益のみを追い求め日本が侵略した近隣の諸国にも、再びあの悪夢を思い出させ、新たな脅威と不安、不信感を与えることにもならないのでしょうか。

「政教分離・信教の自由」の主張をその信仰的特長とする私達バプテストは、今迄も首相の靖国神社参拝を政教分離違反として反対してきました。私達は「政教分離・信教の自由」が侵される時、必ず、その他の人権も脅かされ、平和が壊されていくことを歴史から学んできました。今になってみれば、小泉首相の靖国神社参拝強行など一連の動きが、戦争準備への布石であったことが、なお一層明らかになってきたように思えてなりません。すなわち、「お国のため」の新たな死者を想定していたのではなかったかと。

今回、自衛隊のイラク派兵を強行するならば、それは、結果的に日本が参戦国とみなされることを意味するでしょう。囁かれてきた徴兵制がしかれる不安もさらに強まっています。武力によらない平和のために、せめて派兵という取り返しのつかない最後の一線だけは越えてはならないと思います。

ぜひ、今一度再考していただき、計画そのものを中止されるように、心から切に要望いたします。

「剣を取るものはみな、剣で滅びる」(キリストの言葉)